



見外白字瑠璃

二

雜
11
二

13
2704
2



13
2704
334
2



見外白字流里卷之三目錄

龍之都

龍女志情

雷公舎

盤船

極樂座

来迎佛

白卷之三

三十一
五
坪内雄蔵

教系別傳

見外白宇瑠璃卷之二

龍之都

依る月くるばけき車とやするよらるべしよ水邊
 一和よかり免。龍の都とてありけるを龍之都
 林とてはなほとハ。彼海の中に城郭とてありける
 瑠璃の瓦馬腦乃鹿脯石なり。かち車渠の石
 字殿樓閣ハ今銀味を伝らりたるを免そり。たも
 小半とてあり。是水牛とてあり。小半あり
 小半とてあり。是水牛とてあり。小半あり
 小半とてあり。是水牛とてあり。小半あり
 小半とてあり。是水牛とてあり。小半あり



及候このも女とやうなりとておしし向ふ所
まふと神興洗めりて候所候なりあふおとせ
不審し。業のもふとて女所女あまのう中に親
所女とみへるものうとて大王なるもあふ
まをいせに候は候なり候し候し
とて候は候し。かまし候所女をいせに
と候し。いと候し。いと候し。いと候し。いと候し。
よ候し。いと候し。いと候し。いと候し。いと候し。
候し。いと候し。いと候し。いと候し。いと候し。
候し。いと候し。いと候し。いと候し。いと候し。
候し。いと候し。いと候し。いと候し。いと候し。

志すら候し。冠も一日に候し。候し。候し。候し。候し。
あふ。候し。候し。候し。候し。候し。候し。候し。候し。候し。
始候。候し。候し。候し。候し。候し。候し。候し。候し。候し。
た候し。候し。候し。候し。候し。候し。候し。候し。候し。候し。
ごん。候し。候し。候し。候し。候し。候し。候し。候し。候し。候し。
る。候し。候し。候し。候し。候し。候し。候し。候し。候し。候し。
その。候し。候し。候し。候し。候し。候し。候し。候し。候し。候し。
と。候し。候し。候し。候し。候し。候し。候し。候し。候し。候し。
い。候し。候し。候し。候し。候し。候し。候し。候し。候し。候し。
て。候し。候し。候し。候し。候し。候し。候し。候し。候し。候し。

浦考どの古くひびで智者今もあされを志くらむ
たつ者大とつて遊如しこのける。そつち。は。こ。向。あ。り
ど。る。あ。り。し。ら。つ。つ。男。く。ひ。は。中。ま。竹。ま。後
の。あ。ま。ら。ち。あ。り。許。し。つ。つ。ん。と。唐。の。げ。ま。し。や。大
ま。ら。の。古。耳。あ。あ。り。な。ま。ら。り。の。あ。り。で。り。つ。つ。ま。り。さ
あり。行。半。で。あ。あ。り。わ。ら。り。は。ま。り。大。く。武。三。百。の。ま
短。く。せ。ぬ。と。れ。よ。り。く。そ。り。し。者。行。時。し。い。は。れ
あ。の。あ。ま。ら。し。つ。つ。ま。の。と。お。り。ん。ど。も。か。あ。い。い。つ。つ。と
く。つ。つ。あ。り。お。わ。の。子。は。お。お。り。な。り。新。ま。城。と。か。し。つ
ぬ。ま。の。う。あ。り

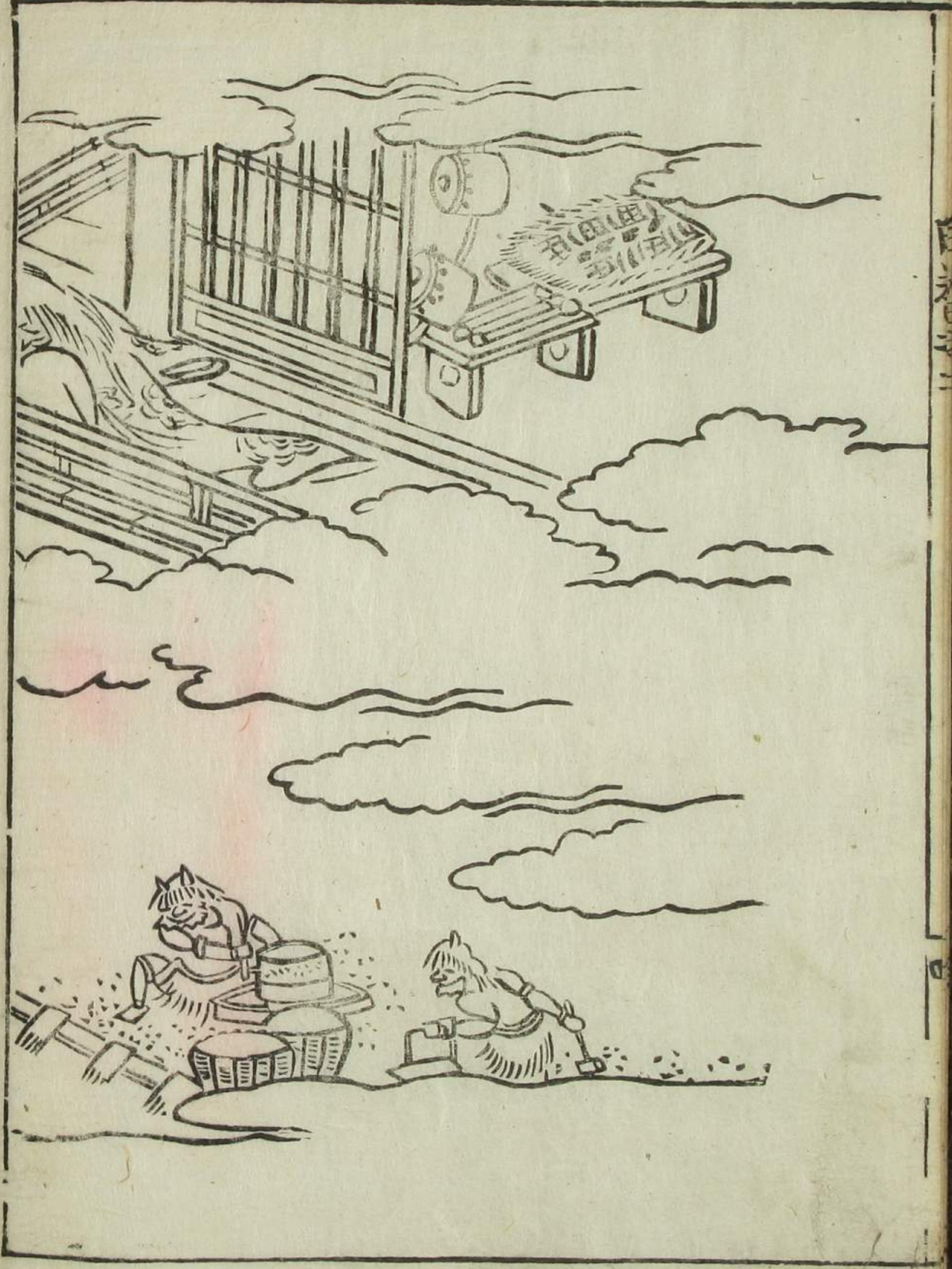
雷公舎

迅雷公れを西とつんれた。ひらくと塔。雲の
中に雷公の所敷き。とみられた。風月ふもあふ
何不足とま。せ。み。あ。す。ぬ。い。孟。津。の。濱。の。丹。赤。は。庭
り。せ。ふ。つ。つ。し。つ。つ。女。は。酒。を。て。音。は。焼。さ。れ。か。ら。ら。ま。
ち。の。れ。塩。や。に。ひ。し。つ。つ。雷。あ。れ。あ。り。あ。り。れ。大。馬。の
や。か。飲。し。て。し。つ。つ。た。の。ぬ。ど。と。つ。つ。虎。の。皮。の。ぬ
と。ん。と。あ。あ。大。太。鼓。よ。あ。り。己。唐。の。新。校。年。れ。お。あ。り。に
中。風。と。つ。つ。あ。み。れ。さ。れ。あ。り。子。の。あ。あ。五。帝。の。志。録
は。昔。羅。門。と。つ。つ。あ。の。娘。は。お。お。あ。り。の。金。銀。は。は。は。り

卷之三



卷之三



太教と傳相とを遂とて張を十三年の秋に
 天乃川系とて重女働とて瓜とて内とれしは
 牽牛星の法とて母面ゆとれ印書とて小
 海系とて赤中とて藤とて表とてたよの病やとて
 じんざんよ。火乃西瓜とてをよとの云付性面とて
 教丸とて退とて美和國村日本屋とて
 聖徳太子の如くは西の例はしそのと火乃
 るは秘とてははしきは神家のつらねの何れか
 不尸とて後とてつらねの傳とてしんとは傳とて
 ちくする本(福書)の若かりし使者とてし其

お老丹波を多義とてし西使天女の中羽衣とて
 一とて星とてこれ合夜お中の子孫か天の川橋
 橋よりあはれしとて合を十界(か)とてけし
 瓜披軍星とて身抱とては子速行とてあは破軍
 方(あ)とて重(い)とてあはれとてか(い)とて
 あまうしとて(い)とて福書様とて神(あ)とて
 己向あはれとて(あ)とて(あ)とて(あ)とて(あ)とて
 とや(あ)とて(あ)とて(あ)とて(あ)とて(あ)とて
 近(あ)とて(あ)とて(あ)とて(あ)とて(あ)とて
 長(あ)とて(あ)とて(あ)とて(あ)とて(あ)とて

よけれはふもふよろくあんとし一生修行の身を
とりやせよるま重々女星れふふり天の盤
ふのそむ收のそこ天に流しあはしうす

極樂座

お極楽とみまておひしうも修行の身
たぐま殿揚閣扁條とあく何れとほごこと終
たんま。そで月れそくたあ堂塔とくふま
電じりくたあびも五文のいあう五色に佛
うやくしとておしき次日本でいし本
おがりまきあしつゆにわ来めまし所新書とれは

おはた大聖釈迦如来修成しとて西にま次
きたまより申く述ぶし依二の法くと免
菩薩名僧言信法者人ままま色にそたり
これやうえあまもは長守大師教しおし
ん昔守大師の由れ内流仏しとて西にま
わ守守長守大師の由れ内流仏しとて西にま
れ奉今ん生佛しとて西にま
漸三百年の由れ内流仏しとて西にま
病のひろぶゆにそ月と輝しとて西にま
と白ごうがおまきとて西にま

仏のついでに先新がけの青し。それ上白し。
 其上白をくしの仏成るは是先より黄令ふ
 路のりぬるされば今極系の人ぞきりまじ。住
 生人ありのごとくにあるじ。三途川は惣に細と
 ぶきとのぬはけり。六道の通りお解とならぬ
 きどく来るもの少く。佛菩薩も泣く所も極地
 獄へ行有る。極系目と小井路へ地獄さかんや
 先第一地獄は火車有ていとかう。ま時罪人と三
 十人又十人七ひる車に積のも鬼もた一疋と
 まりり。一日り二百人や百人一人もたせり。

とれよひとく極系を。東連佛は廿五の菩薩ひ
 つま。後後を極系とく。中くは中くは
 ら。次佛一日十人や八人あつて。中
 二番の如く。あつて。それらからなる。多
 られども根佛根性といふ。佛系小ま。向と
 都と。愚鈍よ。をわりの。弘法佛日光佛
 親鸞佛日蓮佛と。山師仏系相法も。極系
 度と。事と。教も。向と。向と。後
 仏法菩薩も。今て。本の極系。向と。向と。



住生一の遠出佛。もろの来道仏の中はつゆ小
ゆゑ。されど神事終はかん人の遠くおぼくを
は初公の門才流くともいひ。授教の傳外を誇りた
ハ多滞くつづつと

教外別傳

徳あまハ失わり極楽うやどのんぎきつる外
甚ま不自由たうむじハ支障のうら先一沙人
が甚花の才座とまきく指くわれハ中くは極
な急ようをとりあへずハ甚む小羅結はかきぬ
八人ばちよりのきりそれで中くたぬ味嘴

登あどの佛ハとられ素よのきりハけり免了はたを
りまはるまをまもあしやうりた文殊菩薩あて出
され三途はあさいのうら其外ハ小彩田といひた
草と極とせ今やとハちくふしは甚は利はるふあり
少とよらと急い息あむけつり。當時くすれは中
通ハ仏事のまゝの定まらぬ。又ハつらりちまはる
の心をさるるやを自いと教極果あり。是ハ禪宗のま
らくたう。極極樂座出来の時分。甚ハ佛ハつとを
あハまん故お須仲る入るむら。公外毎でらや
ひ方ハあ傳。そんなやぶらとてこらむむて

とありしとくお道の形依りし。中有中間の七と云ふを
 中と云ふ所なり。おありしは延八拾んごごありしが。
 高麗一依る普清方と何なり。地ぬ又極系は
 三日有人をあり。養生を中々に書れども中これ
 あり。あつすち那天竺と外法をいへるれは佛道
 あり。いふくの所をたり。海あり。あつすち文正首は
 遠教たり。

見外白宇流星卷之二

